

# 宗祖降誕会

## 沖繩別院と久米島布教所で 親鸞聖人のご誕生をお祝いする



沖繩別院の  
降誕会法要



輪番(右)の紹介で  
挨拶する重藤職員(左)

5月17日(日)午前10時、沖繩別院本堂にて宗祖降誕会をお勤めしました。親鸞聖人のご誕生(5月21日)をお祝いする法要です。まず「宗祖讃仰作法」をお勤めしました。そして久留島智祐輪番が挨拶し、4月1日付で沖繩別

院に配属された重藤寛史(一般職員)を紹介しました。ご法話には中川一晃師(本願寺派布教使、福岡教区御笠組願應寺住職)を講師にお迎えしました。中川師のお話に、参拝者は時にとつと笑い、時に真剣な表情でうなずいて聞いておられました。中川師は最後に「お念仏をいた



久米島布教所の  
降誕会法要

シャボン玉で降誕会を祝う

だくなかで私の本当の姿に気づかされ、自分一人がままならぬ人生を歩んでいるのではなく、阿弥陀さまの光に照らされることにより私のいのちがきらかとなり、仲間と共にこの人生を歩んでいくことに目覚めていくのではないのでしょうか」とまとめられました。法要後、皆でお齋をいただきました。久米島布教所では、5月10日(日)午後

1時から宗祖降誕会をお勤めしました。布教所では日曜学校を毎月1回開催しており、宗祖降誕会は日曜学校の一環として子どもたちを中心に行いました。まず久留島輪番の調声により皆で「らいはいのうた」を元氣にお勤めしました。輪番は、「有り難うの反対の言葉は「当たり前」です。当たり前と思つて生活すると、有り難うはなくなつてしまいます。常に感謝の気持ちを持ちましょう」とお話ししました。その後、全員でシャボン玉を飛ばして遊び、親鸞聖人のご誕生をお祝いしました。

# うちな

浄土真宗本願寺派  
発行 本願寺沖繩別院  
(浦添本願寺)  
発行人 久留島智祐  
〒901-2132  
沖繩県浦添市伊祖5-10-1  
電話 (098) 877-3276  
ファックス (098) 877-4242  
mail ameku2182@yahoo.co.jp

院に配属された重藤寛史(一般職員)を紹介しました。ご法話には中川一晃師(本願寺派布教使、福岡教区御笠組願應寺住職)を講師にお迎えしました。中川師のお話に、参拝者は時にとつと笑い、時に真剣な表情でうなずいて聞いておられました。中川師は最後に「お念仏をいた

1時から宗祖降誕会をお勤めしました。布教所では日曜学校を毎月1回開催しており、宗祖降誕会は日曜学校の一環として子どもたちを中心に行いました。まず久留島輪番の調声により皆で「らいはいのうた」を元氣にお勤めしました。輪番は、「有り難うの反対の言葉は「当たり前」です。当たり前と思つて生活すると、有り難うはなくなつてしまいます。常に感謝の気持ちを持ちましょう」とお話ししました。その後、全員でシャボン玉を飛ばして遊び、親鸞聖人のご誕生をお祝いしました。

## 新任のご挨拶



重藤寛史

このたび、4月1日付にて沖繩別院に配属となりました佐賀県出身の僧侶、重藤寛史でございます。野球観戦が好きで、休日には試合を楽しみにしております。ボウリングも趣味ですが、腰痛のため最近控えめにしております。これまで京都の西本願寺で23年、東京の築地本願寺で5年奉職してまいりました。このたび初めて沖繩に参り、地域の文化や風習を学びながら、少しでも皆様のお役に

立てるよう努めてまいりたいと存じます。一日も早く仕事に慣れ、地域に貢献できるよう精進いたします。見た目が強面に見られることもございますが、決してそのようなこととはございませんので、どうぞお気軽にお声がけください。

## お知らせ みどり丸遭難犠牲者 追悼法要 8月17日です

沖繩別院では、沖繩史上最悪の海難事故とされる「みどり丸遭難事故」の犠牲者を追悼する法要を、8月17日(月)午前9時、久米島町銭田森林公園内「みどり丸遭難犠牲者慰霊碑」前にて厳修します。1963年8月17日、那覇―久米島間を運航していた定期貨客船「みどり丸」は、激しい横波を受けて沈没し、86名が犠牲となり、26



名が行方不明となる大惨事となりました。この悲しい事故の記憶を風化させることなく、次の世代へ語り継いでいくための追悼法要です。どなたでもご参拝いただけますので、ぜひお参りください。



鹿兒島別院職員研修  
3班の皆さん



2月24日(火)に鹿兒島別院職員研修3班の皆さん、3月9日(月)には鹿兒島別院職員研修4班の皆さんが沖繩別院に参拝されました。沖繩らしい陽差しのふりそそぐシーズンとなりました。沖繩別院では、今後も皆さんのご参拝をお待ちしております。

## ハイサイ!! 沖繩へようこそ

鹿兒島別院職員研修  
4班の皆さん

# 納骨堂総追悼法要



別院での法要



多くのご家族がにぎやかに参られた別院納骨堂

沖繩別院では、十六日祭(旧暦の1月16日)を機縁として仏さまの教えに耳を傾けていただき、毎年各所で「納骨堂総追悼法要」をお勤めしています。今年も

3月4日(水)が十六日祭にあたり、沖繩別院では午前10時と午後2時の2回、天久礼拝所と久米島布教所では正午にお勤めしました。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 異動のご挨拶



竹林尚顕

このたび、4月1日付にて出向契約を終え、浄土真宗本願寺派宗務所社会部に勤務することとなりました。

在任中は「太平洋戦争全戦没者・沖繩戦終戦80年追悼法要」のご縁、「児童念仏奉仕団」など、貴重なご法要や職務に携わることができましたこと、ひとえに皆さまのお力添えの賜物と存じます。

また沖繩という地で、様々な経験させていただきました。私のお人生において大きな礎となっております。新たな任地において、沖繩の地で子育てをいただいた経験を生かし、ご法義の繁盛に微力を尽くす所存です。

# 花まつり

花に囲まれてお生まれになったお釈迦さまのご誕生をお祝いしました



4月8日は、仏教を開かれたお釈迦さま(ゴータマ・シッダールタ)の誕生日とされています。

全国の寺院ではお釈迦さまのご誕生

## 花園に生まれたお釈迦さま

お釈迦さまは今から約2500年前、インドとネパールの国境付近にあるルンビニーの花園でお生まれになりました。お釈迦さまの母マヤー夫人が里帰りの途中、ルンビニーの花園で休んでいた際に、脇の下からお生まれ

## 沖繩別院の花まつり

沖繩別院の花御堂は、今年も沖繩別院の門信徒の大丸克子さんに飾っていただきました。

この逸話から、法要では周囲を花で飾った花御堂に、生まれたばかりの小さなお釈迦さまの像を安置し、参拝者の方々は甘茶をかけてお祝いをします。

## 久米島布教所の花まつり

久米島布教所では日曜学校で「花まつり」のお祝いをしました。花御堂に甘茶をかけ、お経のあと、子どもたちはめいめい生け花で仏花をつくり、お供えました。



久米島布教所の花まつり



日曜学校の子どもたちそれぞれが、生け花で仏花をつくった。花を選ぶのも、生けるのも大騒ぎ。たのしくお供えできました

法要の後、久留島輪番にご話いただきました。

最後に花御堂を本堂から納骨堂内に移動させました。沖繩県内はちやうど清明祭の時期と重なったため、多くの方が納骨堂に参られ、花御堂の説明を読んだり、甘茶をかけてお祝いをされていました。